

鎌倉市公共施設 再編計画NEWS

No.23
2018年9月発行

持続可能な都市 鎌倉を目指して

(コンパクトなスマート本庁舎の整備)

本庁舎整備に向けた取組経緯

本市では、今後の人口減少社会の到来と老朽化する公共施設を健全に維持・管理することを目的とした「鎌倉市公共施設再編計画(2015年3月策定、以下「再編計画」)」に基づき、2016年度は「鎌倉市本庁舎整備方針(2017年3月策定、以下「整備方針」)」の策定に取り組み、本庁舎は「移転して整備する」との方針を定めました。移転先については、市民の皆さんの意見を聴きながら慎重に検討を進めることが必要と考え、本市の所有する低未利用の公的不動産の利活用と併せて、全市的な視点から検討し、2018年3月に策定した「鎌倉市公的不動産利活用推進方針」において、本庁舎の移転先を「深沢地域整備事業用地(行政施設用地)」に決定しました。

移転先の利活用の基本方針

本庁舎の移転先とした深沢地域整備事業用地(行政施設用地)における利活用の基本方針は、本庁舎・消防本部・総合体育館を一体的に整備することでシビックエリアを形成し、新しい拠点の機能強化・賑わいの創出とともに、市民に「医療」「健康」などの新たな価値を提供します。



今年度の検討内容

今年度は、本庁舎整備の理念や方向性、施設の規模やコスト等の基本的な事項を定めた「基本構想」の策定を進めています。この検討に当たっては、学識経験

者等で構成される「鎌倉市本庁舎等整備委員会」での議論と併せて、市民対話やアンケートを実施することでより多くの市民の皆さんから意見を聴くことにも取り組んでいます。

市民対話の目的は、市民感覚を取り入れた「基本構想」の策定を目指し、取組状況を共有するとともに、新たな本庁舎をどのような建物にするかという理念について、多様な意見を伺っていくことです。

本庁舎整備の取組スケジュール (現時点の予定であり、確定ではありません)

- 2016年度**
整備方針を検討し、本庁舎の移転を決定
- 2017年度**
全市的な視点で検討し、本庁舎の移転先を決定
- 2018年度**
基本構想の検討・策定
- 2019年度**
基本計画の検討・策定
- 2020～2021年度**
設計
- 2022～2024年度**
工事
- 2025年度**
開庁

第1回鎌倉市本庁舎等整備委員会を開催しました。

本庁舎等の整備に関する事項を調査・審議することを目的として学識経験者3名、知識経験者1名、公共的団体からの推薦者5名の合計9名による委員会を設置し、第1回委員会を8月2日(火)に開催しました。委員会では、本庁舎整備に向けたこれまでの取組、本庁舎の移転整備とまちづくり、規模・コストなどについて説明し、質疑応答や論点・進め方の確認を行いました。

なお、本委員会は傍聴が可能です。会議資料等も市ホームページで公開していますので、ぜひご覧ください。



鎌倉市本庁舎等整備市民対話(第2回)を開催し、4つの「ありたい姿」を描きました。

新たな本庁舎の「基本構想」に市民感覚を取り入れるための市民対話を8月4日(土)に開催しました。市民対話のメンバーは、無作為抽出により案内状を送付した市民の中で参加を希望された30名です。当日は、16名が参加し、本庁舎に求めたい、経験したいことを対話した後、考えや想いの近い人たちがA～Dの4チームに分かれて本庁舎のありたい姿を描いていただきました。



A チームの意見

ネットワーク型 ミニмум・コンパクトな本庁舎

- ① IT化を図り、本庁舎に必要な機能をミニмум・コンパクト化する。柔軟な発想を持ち、例えば将来的には市長室や議場も必要ないといった発想があっても良さそう。
- ② 本庁舎は災害時に情報を発信する中枢機関であるが、情報のネットワーク化を強化することで、必要最小限のコンパクト化を実現できるのではないか。
- ③ 平時は様々な活用ができる「何もないスペース」の確保も重要。しっかりとした建築物である必要はない。

D チームの意見

簡素化・効率化・ ミニмум本庁舎

- ① IT活用と効率的な空間活用によりミニмум化を図る。データの一元管理で空間を削減するだけでなく、行政サービスの効率化も図る(税金・保険関係の滞納、不払いへの対応等)。庁舎機能は1~2フロア程度でまかない、余剰面積は民間に貸して稼ぐ庁舎となっても良い。整備は180億円と安くなく、モノレールの機能強化等も含めると400億円ほどかかるという話もあり、移転整備に賛成できない。本庁舎は普段行く機会がない場所で今後は人口も減り広い面積は必要ないのでは(職員も将来的に減るのでは)。
- ② 防災対策は最も重要で、津波だけでなく様々な対策を考慮しなければならず、それを踏まえた立地が必要。
- ③ 市民の居場所、本庁舎の主要機能は現在地にあり、市長の部屋は鎌倉地域にあるべき。議会や情報公開コーナーは普段からよく利用しており、鎌倉地域にあってほしい。鎌倉らしい機能、外観は現在地に力を入れるべき。

B チームの意見

稼げる次世代の本庁舎

- ① 平時の機能を利用者別の視点で検討。
 - ▶ **住民** 図書館、カフェなど気軽に行きやすい魅力的な空間があると良い(これらは市が運営せず、民間に委託)。
 - ▶ **業者** これまで通り行政との打ち合わせに訪れるイメージ。
 - ▶ **ビジネスマン** コワーキングスペースを設ける。
 - ▶ **観光客** カフェや美術館などの空間があれば観光地となる。
- ② IT化が進めば、その場に集まらなくても様々な人々がコミュニケーションをとれる空間になる。また、自動運転化が進み、遠く離れた市民が簡単に往来できる市役所になれば、作業所や居場所としての価値が高まる。
- ③ 稼げる箱という機能を持つ庁舎になっても良い。

C チームの意見

強くて壊れない 防災時でも頼れる本庁舎

- ① 躯体はものすごく強固なものとし、地震等でも壊れず安心で安定的な機能を発揮することができる。浸水に対しても強い庁舎に。浸水しても問題ないように、重要な機能を3階に配置することも大事。
- ② 災害時には情報伝達も非常に重要。各自が命を守りやすいように自治会と連携し、拡声器等を活用して情報拡散できる備えをつくってはどうか。また、自衛隊や国等との情報伝達やアクセスをスムーズにし、円滑な防災対策が取れる庁舎となっほしい。
- ③ IT化を進め、平時は市民や職員が本庁舎に行かなくてもサービス供給できると良い

ともに考える未来の本庁舎 市民対話拡張ワークショップ参加者募集

多発する自然災害に対応し、災害を生きぬくまちをつくりたいと思っています。深沢地域における新しい本庁舎の機能や現在の市役所の場所の活用について、いっしょに考えませんか。市民の皆さんのアイデアを生み出す対話の場です。多くの方のご参加をお待ちしております!

日時 10月8日(月・祝)

第1部 13:30~15:30

新しい本庁舎に何を求めたいですか?

第2部 16:00~18:00

現在の本庁舎の場所をどう生かしたいですか?

会場: 深沢学習センター 3Fホール

託児も
ご相談
ください

取組内容について職員が説明に
向う出前講座も受け承ります。

発行者: 鎌倉市 行政経営部 公的不動産活用課 公的不動産活用担当
電話: 0467-23-3000 (内線 2565)
URL: <http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/facility/facility.html>

